

告知事項 1 下表に該当する病気について、過去に一度でも診断(治療が必要ないおよび疑いがある場合を含みます)されたことがあれば告知が必要です。

告知事項 2 お申込みのペットが猫の場合は、項目No.12をご確認のうえお答えください。



告知事項 1 2	No.	病気の分類の具体的な病気の例	告知にあたっての注意事項	(ご参考)病気の概要
	1	心疾患   心不全、弁膜症(僧帽弁閉鎖不全症、三尖弁閉鎖不全症等)、心筋症(肥大型心筋症、拡張型心筋症等)、狭心症、心内膜炎、先天性心疾患(心室中隔欠損症、ファロー四徴症)、不整脈、心肥大・拡大、心雑音(無害性のものを除く)等	治療が必要ないとされた場合でも、「 心臓が大きい 」等、何らかの 心臓の異常について獣医師より説明を受けている場合には告知が必要です 。告知事項 1 の「はい」を選択してください。動脈管開存症(PDA)がある場合は、告知事項 1 の「いいえ」を選択してください。ただし、告知事項 4 に詳細をご記入ください。	心臓の病気全般を指します。心機能が低下すると全身に酸素を含んだ血液が十分にいきわたらなくなり、咳や運動不耐(お散歩を嫌がる、疲れやすいなど)などの症状が現れます。
	2	腎疾患   慢性腎臓病(CKD)、急性腎不全(AKI)、腎結石、水腎症、嚢胞腎、(腎盂)腎炎、ネフローゼ症候群、先天性腎疾患(腎低形成等)	腎臓の血液検査数値の異常(例:腎臓の数値が高い)について診断名が不明な場合は、告知事項 1 の「いいえ」を選択してください。ただし、告知事項 3 に該当する場合は、No.24をご確認のうえ、詳細をご記入ください。	腎臓の病気全般を指します。腎機能が低下することでおしっこが正常に作られなくなり、多飲多尿の他に嘔吐や貧血等の症状が現れます。
	3	副腎疾患   クッシング症候群(副腎皮質機能亢進症)、アジソン病(副腎皮質機能低下症)、原発性アルドステロン症(コーン症候群)	—	副腎の病気全般を指します。電解質の異常や食欲不振、嘔吐、下痢、体重減少(アジソン)等さまざまな症状がみられます。
	4	肝胆疾患   肝不全、肝硬変、肝機能障害、肝炎、胆のう炎、胆管炎、胆のう粘液嚢腫、胆石症、胆泥症	肝臓・胆のうの血液検査数値の異常(例:肝臓の数値が高い)について診断名が不明な場合は、告知事項 1 の「いいえ」を選択してください。ただし、告知事項 3 に該当する場合は、No.24をご確認のうえ、詳細をご記入ください。	肝臓および胆のうの病気全般を指します。肝機能が低下することで代謝や解毒ができなくなり、食欲不振・嘔吐・黄疸などの症状が現れます。
	5	糖尿病   糖尿病、糖尿病性ケトアシドーシス、高血糖、尿糖	血糖値の異常について診断名が不明な場合は、告知事項 1 の「いいえ」を選択してください。ただし、告知事項 3 に該当する場合は、No.24をご確認のうえ、詳細をご記入ください。	糖を代謝するホルモン(インスリン)の異常によって、血糖値が上がってしまう病気です。多飲多尿や多食、消瘦(著しく痩せた状態)等の症状が現れます。
	6	フィラリア感染症   フィラリア症、大静脈症候群(VCS、ベナケバ)	症状がない場合でも検査結果が「 陽性(弱陽性も含む) 」の場合は告知が必要です。告知事項 1 の「はい」を選択してください。	蚊が媒介する感染症で、犬糸状虫(フィラリア)が心臓や血管に寄生する病気です。咳や運動不耐性(お散歩を嫌がる、疲れやすいなど)などの症状が現れます。
	7	悪性腫瘍   癌(がん)、腫瘍(良性を除く) ・〇〇癌(例:扁平上皮癌、移行上皮癌) ・〇〇肉腫(例:血管肉腫、平滑筋肉腫) ・〇〇腫(例:悪性黒色腫(メラノーマ)、リンパ腫、肥満細胞腫)	完治している(抗がん剤治療、手術で摘出済みなど)場合でも告知が必要です。告知事項 1 の「はい」を選択してください。	いわゆる「癌(がん)」のことで、異常増殖をする細胞の集まりである腫瘍の中でも特に悪性度の高いもの(転移しやすい、どんどん大きくなるなど)を指します。
	8	脳・神経系疾患   脳炎、髄膜炎、脳梗塞、前庭疾患、椎間板脊椎炎、変性性脊髄症、肝疾患に伴う神経症状、先天性脳・神経疾患(水頭症、後頭骨形成不全症候群(COMS)、脊髓空洞症)、神経症状(チック等) ※てんかん、椎間板ヘルニア、環軸不安定症については右欄をご確認ください。	てんかん、椎間板ヘルニア、環軸不安定症がある場合は、告知事項 1 の「いいえ」を選択してください。ただし、告知事項 3 に該当する場合は、No.25～27をご確認のうえ、詳細をご記入ください。	脳および神経の病気全般を指します。脳や神経の異常によって、発作・斜頸・歩行異常などの症状が現れます。
	9	甲状腺疾患   甲状腺機能亢進・低下症、上皮小体機能亢進・低下症	—	甲状腺および上皮小体の病気全般を指します。甲状腺や上皮小体から分泌されるホルモンのバランスが崩れると、体重変化(増加/減少)、皮膚被毛の変化、興奮/沈鬱等さまざまな症状が現れます。
	10	ホルネル症候群  	—	脳と眼を繋ぐ交感神経の異常によって起こる病気です。瞳孔が小さくなる(縮瞳)、まぶたが垂れ下がる(眼瞼下垂)、瞬膜突出等、目や目の周りにさまざまな症状が現れます。
	11	猫伝染性腹膜炎(FIP) 	—	猫コロナウイルスFcoVの強毒型であるFIPウイルスによる感染症で免疫が深く関与する疾患です。発熱や胸水・腹水貯留*、黄疸等の症状が現れます。※胸水・腹水の貯留がないドライタイプもあります。
	12	猫免疫不全ウイルス感染症(猫エイズ、FIV) 	次の①または②の場合でも告知が必要です。告知事項 1 の「はい」を選択してください。 ①症状はないが、検査結果が「 陽性(弱陽性も含む) 」の場合(潜伏感染・キャリアを含む) ②左記の病気の「 疑いがある 」と診断された場合 また、多頭飼育されている猫の中に猫免疫不全ウイルス感染症と診断された猫がいる場合は、告知事項 2 の「はい」を選択してください。	感染猫とのケンカ時等に唾液や血液を介してうつる、猫免疫不全ウイルスによる感染症です。無症状の期間を経て、発熱や口内炎などの症状が現れ、末期には免疫不全となりさまざまな症状が現れます。
	13	猫白血病ウイルス感染症(FeLV) 	—	感染猫との親密な接触(舐め合い)等によりうつる、猫白血病ウイルスによる感染症です。リンパ腫や白血病といった造血系腫瘍の他に貧血や免疫不全等のさまざまな症状が現れます。
	14	パベシア症  	病状がない場合でも検査結果が「 陽性(弱陽性も含む) 」の場合には告知が必要です。告知事項 1 の「はい」を選択してください。	マダニが媒介する感染症で、パベシア原虫が赤血球に寄生する病気です。貧血や発熱などの症状が現れます。
	15	ヘモプラズマ症  	—	感染猫とのケンカやマダニの寄生などによってうつる、マイコプラズマが赤血球に寄生する病気です。貧血や発熱などの症状が現れます。

注意事項 上記の病気については、確定診断がない場合であっても、獣医師により「疑いがある」との診断を受けている場合や該当する病気の治療薬を継続して服用している場合等には、ご契約をお引受けできません。



…犬の病気



…猫の病気

告知事項 3 過去3か月以内に病気やケガ(疑いを含みます)で動物病院を受診した場合は告知が必要です。 ※下表に該当しない病気やケガ(疑いを含みます)がある場合についても告知が必要です。

告知事項 3	No.	病気の分類の具体的な病気の例	告知にあたっての注意事項「診断名と症状および治療の詳細」欄にご入力いただきたい事項	(ご参考)病気の概要
	16	皮膚炎   アトピー性皮膚炎、アレルギー性皮膚炎、細菌性皮膚炎(膿皮症)、マラセチア性皮膚炎、皮膚糸状菌症、脂漏症、乾皮症	原因(例:アレルギー性、細菌性など)や今後の治療方針などについて、詳細をご記入ください。	皮膚の炎症全般を指します。原因によってさまざまな種類があり、痒み・フケ・脱毛などの症状が現れます。
	17	外耳炎   細菌性外耳炎、マラセチア性外耳炎、耳ダニ感染(耳疥癬)、アレルギー性外耳炎	原因(例:細菌性、ミミダニ感染など)や今後の治療方針などについて、詳細をご記入ください。	耳の炎症全般を指します。原因によってさまざまな種類があり、痒みや耳垢の増加などの症状が現れます。
	18	できもの、イボ、腫瘍、腫瘤   乳腺腫瘍、脂肪腫、乳頭腫、皮膚組織球腫、皮脂腺腫	発生部位(例:乳腺、皮膚など)や(細胞診や病理組織などの)検査の有無と結果などについて、詳細をご記入ください。	良性腫瘍は一般的にゆっくりと大きくなり、転移することは極めて稀とされています。
	19	歯周病   歯肉炎、歯周炎、歯石、歯槽膿漏、歯根膿瘍、根尖膿瘍、眼窩下膿瘍(眼の下の腫れ)	治療が必要ない場合でも告知が必要です。今後の治療方針などについて、詳細をご記入ください。	歯周病菌によって引き起こされる炎症性疾患で、歯の周りの歯ぐき(歯肉)や、歯を支える骨(歯槽骨)等が溶けてしまう病気です。
	20	尿石症、膀胱炎   膀胱結石、尿道結石、ストラバイト(リン酸マグネシウムアンモニウム)結晶、膀胱炎、シュウ酸カルシウム結晶、猫下部尿路疾患(FLUTD)、尿管結石	今後の治療方針などについて、詳細をご記入ください。 ※腎結石がある場合は、No.2に該当するため告知事項 1 の「はい」を選択してください。	尿石症は尿路(腎臓→尿管→膀胱→尿道)にできる結石によって障害が起こってしまう病気で、膀胱炎の原因となることもあります。その他に膀胱炎には細菌性や特発性といったものもあります。血尿や頻尿症状が気づきやすいですが、「おしっこが出ていない」ことも重大な症状です。
	21	眼科疾患   白内障、緑内障、角膜炎、結膜炎、角膜びらん・潰瘍(目の傷)、チェリーアイ、乾性角結膜炎(ドライアイ)、水晶体脱臼、網膜剥離	罹患している目(例:右目/左目)などについて、詳細をご記入ください。	目の病気全般を指します。病気によっては痛み(目を閉じる)・充血・涙目・目やにの増加などの症状が現れます。
	22	膀胱疾患   肺炎、膀胱膿瘍、膀胱分泌不全	今後の治療方針などについて、詳細をご記入ください。 ※糖尿病がある場合は、No.5に該当するため告知事項 1 の「はい」を選択してください。	膀胱の病気全般を指します。 激しい嘔吐、慢性的な嘔吐や下痢、白っぽい便、体重減少等の症状が現れます。
	23	自己免疫疾患   免疫介在性血小板減少症(IMTP)、免疫介在性溶血性貧血(IMHA)、紅斑性狼瘡(エリテマトーデス)、天疱瘡、リウマチ、重症筋無力症、免疫介在性筋炎	今後の治療方針などについて、詳細をご記入ください。	免疫機構の異常により、さまざまな病気を引き起こします。
	24	血液検査数値の異常   肝数値の異常(ALP,ALT,ASTなど)、腎数値の異常(BUN,Creなど)、血糖値、電解質の異常等	治療が必要ない場合や診断名がついていない場合でも告知が必要です。血液検査の結果(項目や数値)や治療の有無などについて、詳細をご記入ください。	—
	25	てんかん   てんかん発作、特発性てんかん、症候性てんかん ※告知事項1の「いいえ」を選択してください。	現時点で治療の必要がないとされている場合でも左記の病気について「疑いがある」と診断されたことがあれば告知が必要です。治療の有無や今後の治療方針などについて、詳細をご記入ください。原因が判明している場合は、[てんかん]の原因についても併せてご記入ください。	さまざまな原因によって脳神経の興奮が起こる脳の病気を指します。全身性/部分的なけいれんや意識障害などの症状が現れます。
	26	椎間板ヘルニア   椎間板ヘルニア(頸・胸・腰部) ※告知事項1の「いいえ」を選択してください。	治療の有無(特に手術)や今後の治療方針などについて、詳細をご記入ください。	背骨と背骨の間にある椎間板によって脊髄神経が圧迫されることによって起こる病気です。背中の痛みや歩行異常といった神経症状が一般的ですが、重度の場合には下半身麻痺となり、床ずれや膀胱炎といった二次的な症状を起こすこともあります。
	27	環軸不安定症   環椎軸椎不安定症、環軸亜脱臼 ※告知事項1の「いいえ」を選択してください。	治療の有無(特に手術)について、詳細をご記入ください。	第1頸椎(環椎)と第2頸椎(軸椎)間の関節が不安定になることによって、痛みや歩行異常などの神経症状が現れることがあります。

注意事項

告知事項に事実と異なる入力をされた場合には、ご契約を解除させていただくことや、保険金をお支払いできないことがあります。



・・・犬の病気



・・・猫の病気

告知事項 4 先天性異常について、過去に一度でも診断された(および疑いがある)ことがあれば告知が必要です。

告知事項 4	No.	病気の分類	具体的な病気の例	告知にあたっての注意事項「診断名と症状および治療の詳細」欄にご入力いただきたい事項	(ご参考)病気の概要
	28	先天性異常  	先天性網膜萎縮症、奇形、口蓋裂、原発性門脈低形成 (PHPV) / 微小血管異形成 (MDV)、酵素欠損、股関節形成不全、動脈管開存症 (PDA) 等	現在症状がない場合でも過去に一度でも診断を受けたことがある場合には告知が必要です。 ※先天性異常のうち、告知事項①の傷病に該当する場合は、告知事項①の「はい」を選択してください。	生まれつき持っている体の異常や病気を指します。
	29	膝蓋骨脱臼 (パテラ)  	膝蓋骨内方脱臼、膝蓋骨外方脱臼	現在症状がない場合でも次の①または②に該当する場合は告知が必要です。 ①過去に一度でも診断を受けたことがある場合 ②左記の病気の「疑いがある」と診断されたことがある場合 症状の程度 (グレード1～4) などがわかりであれば、併せてご記入ください。	膝にある膝蓋骨が内側または外側に外れてしまう病気を指します。痛みや歩行異常 (跛行、足の挙上) などの症状が現れます。
	30	門脈シャント  	門脈体循環シャント (PPS)、奇静脈シャント	現在症状がない場合でも過去に一度でも診断を受けたことがある場合には告知が必要です。治療の有無 (特に手術) について、詳細をご記入ください。	肝臓に入る血管 (門脈) と全身の静脈の間に異常な血管 (シャント) が形成されてしまう病気を指します。本来肝臓で解毒される有害物質が全身にまわり、消化器症状や発作などの症状が現れます。

注意事項

告知事項に事実と異なる入力をされた場合には、ご契約を解除させていただくことや、保険金をお支払いできないことがあります。